

埼玉県親善大使レポート

My Special Experiences In Australia

石川 夏帆/ Kaho Ishikawa

－Introduction

この度埼玉親善大使として令和元年度埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ〈大学附属英語学校派遣〉プログラムに参加させていただきました、石川夏帆と申します。私は2月中旬から3月中旬の約5週間大学に通いながらオーストラリアクイーンズランド州のゴールドコーストに滞在いたしました。この5週間様々な方と出会いとても充実した日々を送ることができました。まず今回なぜ私がこのプログラムに応募させていただいたかを述べさせていただきます。

- ・ 大好きな教科である英語を使って自分が住んでいる埼玉県を広めたい
- ・ 将来のキャリアとして興味のある日本語教育について触れてみたい
- ・ オーストラリアの高齢者事情について情報を集めたい

この3つの理由を掲げ滞在しました。いくつかの項目に分けて今回のプログラムについて紹介をしていきたいと思います。拙い文章になってしまうかもしれませんが最後まで目を通していただけたら幸いです。

－私の1週間

・ WEEKDAYS (平日)

平日はサザンクロス大学で8:30~13:15までGeneral Englishコースにて英語の授業を受けました。授業の開始時間は私の日本の大学よりも早かったのと、交通機関(特にバス)は遅延していることが多かったので最初の登校日はドキドキしました。サザンクロス大学はゴールドコースト空港から徒歩で10分くらいのところにあります。私が所属させていただいていたクラスは日本人が私含めて2人でしたので常に英語を意識することができ短期間でしたが英語を喋ることに対する向き合い方が大きく変化しました。私以外のクラスメイトはGeneral Englishコースを終えた後、サザンクロス大学の学部で勉強するための次のステップであるEAP(English for Academic Purposes)で勉強をする予定で、皆国籍、年齢共にバラバラでしたので授業だけでなく日常会話の中で情報交換するのが私の密かな楽しみでした。また国籍がバラバラなことから、日常的に使う挨拶やリアクションなどに使う言葉をそれぞれの国の言葉で教え合って使う、と

いう異文化体験を日常の中ですることができとても面白かったです。もちろんほぼ毎日宿題が出ます。次の日に宿題の確認があるため、放課後はクラスメイトとおしゃべりをしながら宿題をこなしました。その後は図書館で勉強をしたり夜ご飯をみんなで食べに行くこともありました。



ランチタイムの時の写真

大学での学びで私が一番苦労したことは、Australian Stock Market (オーストラリアの株) についてのプレゼンです。このプレゼンはグループプレゼンとして位置づけられ数人ずつのグループに分かれて行います。各グループはオーストラリアの会社5つを選び、5週間各会社の株の変動を調べ、変動した理由などをまとめました。私は帰国日の関係で、3週間の変動を調べ、他のクラスメイトより先に1人で発表をしました。株について勉強することが初めてでしたので、とても大変でしたが発表が終わったときには大きな達成感を味わうことができました。他のクラスメイトの発表を見ることができなかつたのが非常に残念でしたが、彼らも無事に終わることができたと私に連絡をくれました。



Australian Stock Market のプレゼンをした際の写真

クラスメイトとのコミュニケーションを通して感じたことは、母国語でない言葉を学びコミュニケーションを取れるということは素晴らしいことだということです。私たちは会話をする際に、それぞれにとって母国語でない言葉である英語を使って会話をしていました。その時は何も考えずにいましたが、今考えると簡単なことではないと思います。今まで私が母国語でない言語を用いてコミュニケーションを取っていたのは主に私と同じ日本人で、授業など同じ環境で母国語である日本語を通して学んだことをその場で実践するというものでした。また日本人同士が日本語で会話をする場面であったとしても、方言により会話に支障が出てきてしまうこともあります。しかし今回はそれぞれが異なる母国語を通して学んだ第二言語である英語を、国境を越え同じ空間の中で学ぶときのツールとして用いていたこと、生活する際のツールとして用いコミュニケーションが成り立っていたこと、この感動を言語化するのはとても難しいのですが帰国してから今回の滞在を振り返ると今までに感じたことのない感情が私の中にあることに気づきました。さらにそれぞれ違った夢を持つ彼らとの学習を通してさらに自分も頑張らなければならない、というきっかけをもらいました。帰国日、飛行機に乗る前に大学に行き最後の別れをしました。クラスのみんなとの別れはとても寂しかったですがまたいつかみんなに会える気がしています！

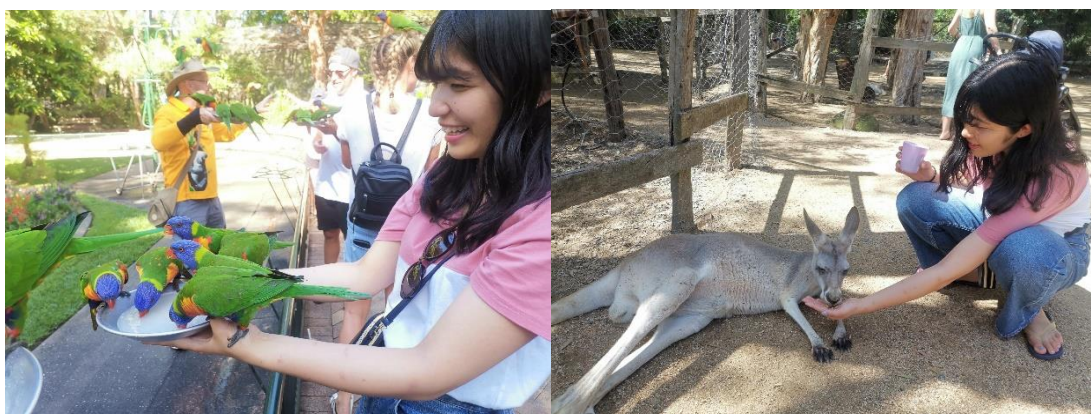


最終日大学とクラスメイトとの写真

・ WEEKENDS (休日)

休日は土曜日の午前中に2回日本語学校でボランティアに参加させていただきました。ボランティアについては後ほど記載させていただきます。その他にもステイ先の近くにある動物園の Currumbin Wild Sanctuary ヘルムメイトと行ったりバスに乗ってショッピングに行ったりのんびり過ごすことが多かったで

す。Currumbin Wild Sanctuaryは私のお気に入りの動物園です。以前にも訪れたことがありそのときに日本の動物園との違いに圧倒され、もう一度訪れたいと思っていたため夢が叶い嬉しかったです。この動物園で過ごす動物たちはとにかく開放的な空間の中で生活していて、人間と動物の距離がとても近いことに驚きました。園内は広く、今回は朝から夕方まで一日中楽しむことができました。私の一番お勧めの場所は園内にある動物病院です。前回訪れた際には、動物たちが手当を受けている様子が一般にも公開されていました。動物の手当てに使用されている呼吸器などの道具は、人間が普段使っているもの（ペットボトルなど）を使用して、動物のサイズに合わせて作られており、病気から回復した後には元の場所での暮らしに戻りやすくするために、病室（主に外）も元の環境と同じような環境になっているそうです。下の写真はロリキートという虹色のインコに餌やりをしているところ（液体状の餌は募金箱にお金を入れるともらえました）とカンガルーに餌やりをしているところです。



園内の動物病院

休日はホストマザーと自宅にあるプールに入りお話をしたりゲームをしたり映画を見たりすることもありました。オーストラリアはフルーツがとても新鮮でおいしく毎日食べていました。その中でもアサイーボウルは私の1番のお気に入りです。たくさんお店があるのですが私のお気に入りのお店は小さな八百屋さんの様なお店で日によって中身のフルーツが違います。値段は少し高めですがとてもおいしくリピーターになりました。1つでもおなががいっぱいになり健康的なスイーツです！



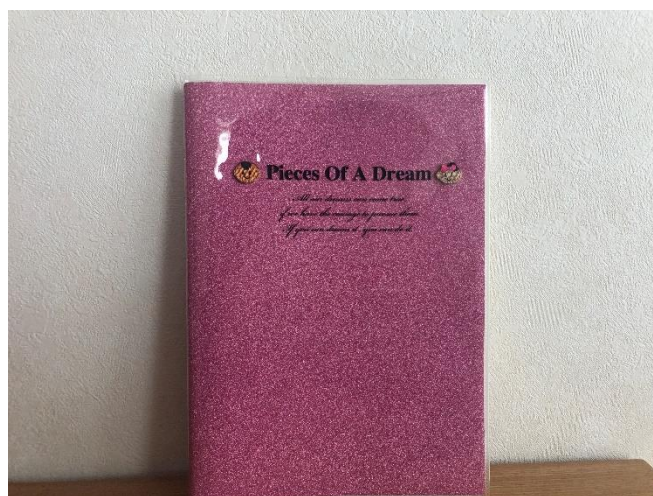
自宅から徒歩で行ける範囲にビーチがあり休日犬と朝から海に行ったり放課後友達と行き遊んだりすることもありました。ゴールドコーストという海の近くに滞在していたためビーチを見る機会が多かったのですが、オーストラリアの海は水が青く砂浜が白いです。そして天気によって海の色も変化します。日本にいるときより自然を身近に感じる事ができました。少し足を伸ばしてゴールドコーストの都市部にあたるサーファーズパラダイスや電車で2時間弱のブリズベンにも行ってきました。どちらも自分が滞在した地域とは違う雰囲気でした。



Surfers Paradise と Brisbane City での写真

・Diary (日記)

私はこの滞在中母親のすすめで毎日日記をつけていました。内容はとてもシンプルでその日の出来事や話したこと、生活の中で気づいたことなどとても小さいことを数行でまとめていました。またそれと同時に1日1枚自分のお気に入りの写真を撮りその日のページに貼りつけるということをして形として思い出を残せるようにしました。本格的に日記をつけたことがなかったのですが小さな事柄までその日を振り返ることができ宝物となりました。今後も機会があれば続けたいです。



ー日本語ボランティア

私は滞在中にひまわり日本語学校という現地の日本人の方々が運営している日本語学校で数回ではありましたがボランティアをさせていただきました。オーストラリアは日本語教育が盛んであるという情報を前から持っていて将来のキャリアとして日本語教員に興味があるため今回の滞在中で自分からオーストラリアの日本語教育について何か行動に移したいと思っていたところ、ひまわり日本語学校を紹介いただきました。ひまわり日本語学校は現地に住む日本人の方が運営をされています。この学校は土曜日の午前中に高校の一部をお借りして行われておりハーフの方、また現地に生まれたときから住んでいる日本人の方などが通われていました。生徒さんも小さい子どもから大人の方まで幅広く各自のレベルに合わせて色々な方法で勉強を進めていました。私はボランティアとして4歳~5歳くらいの生徒さんのクラスと一緒にカルタをしたり、オーストラリアでの森林火災をきっかけに防災について発表する日があったのでその日に向けてクイズ作りなどをお手伝いしました。授業が3時間あったのですが最後の1時間は全クラス合同で日本文化体験の時間となっていました。私がいたときはひな祭りに関する文化体験（お飾りを作ったりひなあられを試食したりひな人形を実際に見たり）をしたり、和太鼓を演奏する方に来ていただい

てみんなで演奏したりする機会がありました。私の中で日本語学校は文法など私たちが外国語を学ぶように日本語を勉強する環境というイメージを持っていました。そのため、ひまわり日本語学校が勉強だけではなく直接日本文化などに触れることによって生徒さんたちが日本語になじみやすくする環境であったことが印象に残っています。生徒さんたちとも楽しく活動させていただきました。いつか機会があればまた参加させていただきたいです。

ーオーストラリアの高齢者事情

私は昨年夏休みに東日本大震災の被災地ボランティアに行かせていただく機会があり、そのときに海外の高齢者事情について興味を持ちました。そのため今回どんなに小さなことでもいいから海外の高齢者と日本の高齢者事情について比較をすることができたらと思っていました。直接高齢者の方としっかりお話しする機会はありませんでしたが毎日登校する時に同じ時間に夫婦でウォーキングをしている方や道を歩いていてすれ違う時に話しかけてくれる方など皆さんとてもフレンドリーで驚きました。日本、特に私が訪れた被災地は一人暮らしのお年寄りの孤立が問題となっていました。この問題に関しては日本では被災地に限らず重要なことだと思います。オーストラリアでは家族で集まることが多いと記載しましたが、3世代が集まることも希ではありません。このようにオーストラリアでは健康志向のお年寄りが多い、またフレンドリーであるという国民性が周りに影響して、自然と助け合いをしていることが多いのではないかと思います。日本は外から客観的にみるとよく内気である、人との関わりに慎重であるなど言われることがあると思います。すべて当てはまっているわけではもちろんありませんが、私も日常の様々な場面で遠慮をしてしまったりためらってしまったりすることも少なくありません。もしかしたら私が踏み出すことのできない最後の一步が、お年寄りの孤立などの重要な問題に一番効果的な、小さなことのようにとても大きなヒントなのではないだろうかと考えました。この経験をきっかけにこれからは今までよりも周りに目を向けて、人との関わりを広げていきたいと思いました。

ー埼玉県親善大使として

私は今回埼玉県親善大使として埼玉県を主観的な視点から広めるだけでなく客観的な視点も含めて広めたいと思い日本人だけでなく知り合いの外国人の方にも、さらには埼玉県に住んでいない方にも「埼玉とは？」 ‘Saitama is about?’ という形でアンケートをとりまとめてプレゼンを作り現地の大学で発表をしました。アンケートを集計して生まれてから19年間住んでいる埼玉県のことでも自分では思いつかないことも多くあり作成している時からとても興味深かった

です。授業で時間を取っていただきプレゼンを行い終了後には東京オリンピックのバッジを皆さんに配布しました。ある人は早速リュックにつけてくれたり、先生とはオリンピックの話題で盛り上がったりと大成功でした。しかし埼玉県と言っただけではピンと来る人はとても少なく東京の隣と言うことによって理解してもらえることが多かったです。このことは、今後埼玉県について広める機会があったときの大きな課題となりました。



埼玉についてプレゼンをした際の写真

またステイ先でマザーとルームメイトと私で、私が日本から持参したお寿司セットでお寿司を作りました。とても好評で滞在中数回お寿司作りが開催されランチなどで持って行きました。クラスメイトとランチをシェアすることが多かったのですがお寿司はクラスメイトにも大人気でした。お寿司作りを通して日本の食文化や埼玉で有名な食べ物など話を膨らますことができ良い経験となりました。オーストラリアには sushi shop がとても多くあり学校帰りの高校生や家族連れなどお寿司は日本以外の国でも多くの方に愛されていました。

一私が感じたオーストラリアと日本の違い

5週間の滞在中様々な場面で日本との違いを体験することができました。特に1番感動したことは「家族の存在」です。オーストラリアの人は家族をとても大切にしています。このことを私はオーストラリアに到着した初日から痛感し感動しました。私のステイ先では主に週末にご家族やお友達が集まり夜ご飯を一緒に食べゲームをしたりお話をしたりすることが多かったのですが、ときには平日にもこのような集まりがありました。日本ではあまり経験することがないので私はこの時間がとても大好きでした。労働環境も日本とは大きく異なっていました。労働についてマザーと話す機会があったのですが、学生が22時過ぎまでバイトをしていることは一般的だということに一番驚いていました。オーストラリアは特に日曜日、スーパーなど生活必需品が売られているお店以外は閉まっていることが多かったです。私は生活パターンなど日本での生活をそ

のままオーストラリアでも実践していましたので、もし私がオーストラリアに住んだら自分のこれまでの生活パターンはどう変わるかな？など想像することもとても楽しかったです。下の写真はステイ先から見える景色と近所にある湖のお気に入りの写真です。外で音楽を聴いたりご飯を食べたり勉強をしたり私が選ぶベストな空間でした。



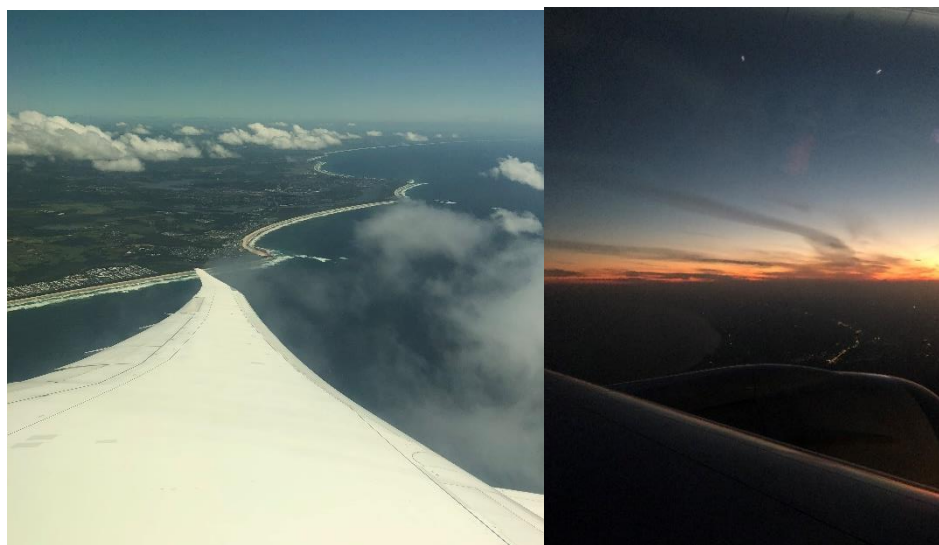
—これからの奨学生の方へメッセージ

今回私は普通の留学という形ではなく埼玉親善大使として派遣をさせていただきました。英語の勉強に加え自分の住んでいる地域をPRするという貴重な経験をさせていただいたと共に思っていた以上に生まれてから住んでいる地域に対する見方が一方向しかないことを、このプログラムを通して気づくことができました。短い期間ではありましたが、多くの方と出会い新たな目標を見つけることができました。もしこの1ヶ月がなかったら、これから先進みたい道が違っていただけないかと思えます。私は自分自身についての将来のビジョンがまだはっきりとしていません。こういう状況はネガティブに捉えられることのほうが多いかもしれませんが、私ははっきりとしていない状況だからこそ色々なことに挑戦できる絶好のチャンスなのではないかと思えます。そのきっかけ与えてくださったのがこの埼玉県クイーンズランド州スカラシッププログラムです。確実に以前の自分とは違った自分に出会うことができました。このプログラムに挑戦して良かったと強く思います。ぜひ皆さんにも挑戦していただきたいです。

—Conclusion

最後になりますが今回渡航前から滞在中、帰国後までご支援くださった埼玉県庁国際課の職員の皆様をはじめ多くの方々に感謝申し上げます。そして私は今回の5週間の滞在を通して今後いつかのタイミングで自分のやりたいことを明確にし、オーストラリアで勉強するという1つの目標ができました。何気ない

日常から自分の母国である日本との違いに気づけたこと、自分の大好きな国であるオーストラリアで埼玉親善大使として自分の住んでいる埼玉県を自らの手で発信することができたことなどすべてが貴重な経験となりました。今回得たこれらのことを残りの大学生活、その先の将来に違う形で活かしていきたいと思っております。是非このプログラムをより多くの方に知ってもらい普通の留学では得ることのできない経験を同じように味わってもらいたいと感じました。改めて本当にありがとうございました。



帰りのフライトにて飛行機からみたオーストラリアと日本